高校教科書と朝鮮関係記述（2009年12月8日作成）

	a　1954発行・教育図書「日本史」小葉田惇	b　1956発行（52検定）山川出版「日本史」東大史学会宝月圭吾藤木邦彦豊田武笠原一男他	1962発行三省堂出版「新日本史」家永三郎	d　1964発行山川出版「詳説日本史」東大宝月圭吾他6人	e　1974発行山川「詳説日本史」井上光貞笠原一男他	f　1988発行三省堂（81検定）「新日本史」家永三郎	g　1988発行山川「詳説日本史」井上光貞笠原一男児玉幸多他	98発行(97検定）山川「詳説日本史B]石井進笠原一男児玉幾也他	i　94発行自由書房（後、桐原書店統合）「新日本史B]竹内理三江坂輝也他	j　07発行（O6検定）山川「詳説日本史B]石井進加藤陽子五味文彦他	k　O8発行実教出版（O7検定）「日本史B]脇田修他14名	l　07桐原書店発行「新日本史B」江坂輝
主な出来事	1955年第1次教科書攻撃。「うれうべき教科書の問題」刊行。文部省検定強化により侵略の記述が消える	教科書冬の時代に入る		1965年家永訴訟。1972本多勝一「中国の旅」出版。71年李進熙氏の「好太王碑文研究」の問題提起	1980年第2次教科書攻撃、1982外交問題となり、近隣諸国条項が定められる。84年家永第3次訴訟			1991「従軍慰安婦」訴訟。93年河野談話、94年から「慰安婦」問題が殆どの高校教科書に登場。93年細川演説。	95年村山談話。第3次教科書攻撃（現在に至る）。97年「つくる会」発足01年「つくる会」教科書出版,	02教科書検定強化の動き。第4次教科書攻撃。07沖縄集団自決記述をめぐる問題や「慰安婦」記述後退の動き。日韓あるいは日中韓共通教科書作成す「未来を開く歴史」、06「向かい合う日本と韓国朝鮮の歴史」など）。一方で05教科書改訂版発行		
近代以前												
①自らの呼称	古代から現代まで「わが国」「われわれ日本人は」を多用。太平洋戦争中の「わが軍」といった使用例	全編通じて「我が国」表記。「わが国、倭が対外貿易、わが財界」。「邦人」使用。近代以前に「国民」使用	呼びかける時に「私たちは日本人である」「日本国の国民である」と記述。「わが日本」「わが〇〇は」などもたびたび。	古代から現代まで使用「わが国は」表記	古代では「わが国」表記なし。現代に使用	「私たち日本国民は」「今や日本人は重大な課題に」「日本国民の責務は」といった使用	**基本的には「わが国」表記なし。時々、古代において「わが国」表記みられる場合がある**					
②古代政権の呼称	説明抜きで「皇室」「大和朝廷」「大和国家」使用	説明なしで「大和朝廷」表記。「皇室」表記。「4世紀、大和の勢力が日本の国土を統一した。世襲の天皇をいただいて連合し、強大な調停を形成した」	「大和朝廷」使用。古代においても「日本政府」と表記あり	3世紀の早い段階から「皇室」「大和朝廷」表記	「大和朝廷」使用	**「倭」「倭国」「大和政権」「大和王権」「ヤマト政権」「ヤマト王権」のどれかを使用。そうした理由も説明。「朝廷」は基本的に使用せず。説明を入れて使用の場**						
③「天皇」の使用時期	説明抜きで「倭の五王」時代から「天皇」使用	説明なしで5世紀ころから「天皇」使用	7世紀からと説明。それまでは「倭王」と表記	倭の五王時代から「天皇」使用	「倭の五王」から説明抜きで「天皇」使用	飛鳥朝6世紀推古天皇から「天皇」の使用。それまでは「大王」	6C推古朝より「天皇」使用。それ以前は大王	左同	**「天武朝」に天皇号の使用開始、と説明してそれ以前は「大王」表記。「倭の五王」では説明の上**			
④任那・高句麗好太王碑	「任那日本府」「北九州や任那には宮家（屯倉）を置いて根拠地とした」「4C後半になると弁韓地方を足掛かりにして南朝鮮の支配に乗り出して行った。好太王の時には百済新羅を破って高句麗の国境まで進撃した」「（五王時代）長い間中国の支配を受けて発展の遅れた朝鮮を抜いて我が国は東アジアでも重要な地位を占めるようになった」と記述	「4世紀ころ朝鮮南部を領土とした。任那である。任那を守るためにしばしば高句麗と交戦した」「このことは好太王碑にも刻まれている」と記述	「日本政府は国内統一の余を借りて4C後半半島南部に進出し弁韓を領土としてここに任那日本府をおいた。ついには百済新羅を服属させた。」と記述。枠外に好太王碑の説明「倭は京城まで進み高句麗と戦った」と記載	「南鮮の弁韓諸国は大和朝廷に征服されてその支配下にはいった」「大和朝廷は『任那』と名づけ（注日本府を置いた）半島計略の根拠地とした」「百済は終始日本の援助を受けたが新羅の態度は定まらず」「好太王碑文によると、日本はよく闘って高句麗を追い返したらしい」「562年任那日本府は滅ぼされた」と記術し、石碑全体像と拓本の写真掲載	「4世紀後半になると大和朝廷は進んだ技術を手に入れるために朝鮮半島に進出し、半島南部を勢力下におさめた。これが任那である。大和朝廷はさらに百済新羅をおさえ高句麗とも戦った。好太王碑に記述がある。」と記術。石碑の写真無し	**「高句麗好太王碑には百済と組んだ倭の軍隊と戦ったことが記されているが、碑文の読み方には学会の見解がわかれている」として枠外にも諸説を説明。また「従来任那に宮家をおいていたとされているが否定する説や五王は九州の政権とする説などである」「大和政権が任那を支配し百済を服属させていたといわれているが異説もある」と記述**	好太王碑文の写真無く文面んも枠外で紹介。本文「碑文には倭が朝鮮に進出し高句麗と戦ったことが記録されている。これは大和政権が加羅（任那）に進出しそこを拠点にしたことを物語っている」	「早くから伽耶と密接な関係を持っていた倭国（大和政権）も高句麗と戦うことになった。高句麗好太王碑には倭が高句麗と交戦したことが記されている」枠外に碑文の読み方の諸説と騎馬民族説の解説あり。「伽耶諸国（任那）」	「優れた技術や鉄を求めていたヤマト政権は4C後半、加羅（任那）と呼ばれる地方に勢力を伸ばし、」と記述。好太王碑は写真を載せて、諸説を紹介	「弁韓の地の加耶諸国（加羅）（枠外に日本書紀では任那と呼んでいると注釈）と密接な関係を持っていた倭国（ヤマト政権）は高句麗と争うことになった。高句麗の好太王碑には倭が高句麗と交戦したことが記されている。」と記述。石碑全体写真と騎馬民族征服王朝説の紹介もある	「大和政権は朝鮮半島に侵入して高句麗とも戦った。高句麗好太王碑文には4世紀末から5世紀初めころ諸国が朝鮮半島で対立し、戦った状況が記されている。大和政権は弁韓の地に勢力を伸ばした。この地方は加羅（枠外注に駕洛、伽耶、日本初期では任那）と呼ばれた」と記述。好太王碑の全体写真と、枠外に解釈の諸説の紹介。	「ヤマト政権は4世紀耶（加羅、任那）と呼韓諸国と交流を深めして新羅と戦った。さの高句麗とも関係はがその経過は高句麗に記されている」とし と碑文の解説。異説
⑤渡来人への視点	説明抜きで「帰化人」を使用。飛鳥文化における渡来人の役割の記載が殆ど無い	「百済や新羅の国々から日本に帰化するものが多くなった」として役割評価	何の説明も抜きで「帰化人」と表記	「帰化人―彼らのうちには半島における戦闘の結果捕虜として連れてこられたものもあったろうが、（中略）技術と知識を持って代々朝廷に奉仕した」と説明。	「文化の進んだ地域から移住してくる人々（帰化人）」として役割を評価	「渡来人」表記	「朝鮮から渡来してくる人々（いわゆる帰化人）によって」として、評価	「多くの渡来人が技術・文化を伝えた」	「朝鮮半島や中国から多くの渡来人が来住し」として役割を高く評価	「戦乱を逃れた多くの渡来人が海を渡って様々な技術や文化を日本に伝えた。」とし、渡来人の活躍を高く評価。飛鳥文化のところでは渡来人の活躍と影響にふれて評価	「 活発な交流の結果渡来人が多数渡来し」とし役割を評価	「朝鮮半島への出兵交渉が盛んになるに半島や中国大陸から人が来住し、我が国 展に大きく貢献した」 鳥文化の項では具体 の役割および百済の 述。
⑥蒙古襲来（1274、1281）	暴風と御家人の働きのみ説明し、高麗の抵抗に				枠外に高麗の抵抗を説明し評価。これ以後、高麗への視点あり	高麗の抵抗に言及	高麗の元への抵抗について枠外で説明	左同	高麗への言及なし	元軍の襲来の失敗の原因として、「高麗や南宋の人々の抵抗によるところもあった」とし、枠外で三別抄の乱など詳しく説明	元の撤退の理由として三別抄の抵抗やベトナム、南宋の人々の抵抗が大きかったことを枠外で記述。	元軍の撤退を「当時 の加護による奇跡と 述し、原因を明らか 無し

	a　1954発行・教育図書「日本史」小葉田惇	b　1956発行（52検定）山川出版「日本史」東大史学会宝月圭吾藤木邦彦豊田武笠原一男他	1962発行三省堂出版「新日本史」家永三郎	d　1964発行山川出版「詳説日本史」東大宝月圭吾他6人	e　1974発行山川「詳説日本史」井上光貞笠原一男他	f　1988発行三省堂（81検定）「新日本史」家永三郎	g　1988発行山川「詳説日本史」井上光貞笠原一男児玉幸多他	98発行(97検定）山川「詳説日本史B]石井進笠原一男児玉幾也他	i　94発行自由書房（後、桐原書店統合）「新日本史B]竹内理三江坂輝也他	j　07発行（O6検定）山川「詳説日本史B]石井進加藤陽子五味文彦他	k　O8発行実教出版（O7検定）「日本史B]脇田修他14名	l　07桐原書店発行「新日本史B」江坂輝
⑦壬申倭乱（1592，1597）						「朝鮮侵略」として朝鮮の被害を詳しく記述	朝鮮軍と民衆の抵抗に本文で説明。「朝鮮出兵」	本文で李舜臣の活躍と「この侵略戦争は」という記述	「侵略の軍は」として実態を詳しく記述	「日本軍の朝鮮侵略」とし、朝鮮水軍や李舜臣の朝鮮水軍の活躍や朝鮮義兵の抵抗、朝鮮の被害の甚大さを記述。	日本軍が苦戦を強いられた原因として李舜臣の水軍の活躍、義兵ゲリラ活動を説明。また、日本軍侵略の結果の朝鮮の被害の甚大さに言及	1ページにわたって豆 の侵入進出を記述。 丁酉倭乱」の記載。 などで被害の大きさ 臣についても。
⑧朝鮮通信使と江戸時代の交流	通信使の記述なし。	「1607年「日鮮修好条約」が成立した。」「朝鮮の使いの来朝となった」「鎖国により貿易船の来航はオランダと中国だけになった」と誤解を招く記述	通信使の記述なし。「鎖国して中国とオランダと貿易を行った」として朝鮮記述なし	本文「1607年朝鮮使節が来朝し」「1609年には己酉約条が結ばれ年々20隻の貿易船を出すことがきめられた」と、行列の写真入り。鎖国の項で「鎖国後、日本に来る貿易船はオランダと中国だけになり」と誤解を招く記述	「　己酉約条により宗氏が年々貿易をおこなうようになった」とし、「長崎ではオランダと中国船だけが来るようになった」	鎖国でオランダ中国だけの貿易と記述だが、「己酉約条」で詳しく説明。釜山の倭館の説明。通信使の説明。	「1607年朝鮮使節が来朝した（通信使）」とし、己酉約条や宗氏の貿易内容、倭館の記述あり。江戸時代に中国オランダ朝鮮三国との交易があったことを記載	左同	写真入りで通信使の説明。「己酉約条」で貿易の説明	「己酉約条」や通信使、釜山の倭館、宗氏の役割を記述。通信使の写真や規模なども記載。鎖国が閉鎖的ではなかったことを説明している	「己酉約条」や通信使、宗氏の役割、朝鮮貿易を記載。通信使の写真。	「己酉約条」「通信使 館」の説明あり。通信 や、貿易の内容にも、
2　近現代												
①征韓論・脱亜論・日朝修好条規（1976）	「日韓修好条規」と表記など、朝鮮とすべきを韓国と表記がみられる。国名に無神経。征韓論記述詳細で背後の明治政権の権力闘争に言及。日清戦争の背景がよく読み取れる。	「たまたま江華島事件が起こり、」「今や朝鮮を清国の属国としての地位から解放せねばならなくなった」と日本側の都合のよい説明/条約の不平等性は説明あり。「日鮮の条約」と記載。	「たまたま江華島事件が起こった」日朝修好条規の条約名を表記せず「不平等条約であった」ことの説明。	「日鮮修好条規」とし、不平等条約の内容を記載しているが、「日本の軍隊が砲撃されるという事件」と記述。/征韓論争の背景の権力闘争に言及/「京城事変」と表記	「高圧的姿勢を取ったまま大陸に進出する足場を作った」/「京城事変」と表記/（教科書はこれ以後、「日朝修好条規」と表記）	江華島事件が日本の責任であることの記述。「日朝修好条規」の問題性も説明	征韓論～、韓国併合へのプロセスが詳細	左同	江華島事件は日本軍の責任であると説明。	江華島事件が日本の挑発であることを説明。征韓論の背後の政治情勢の説明が不十分	征韓論を朝鮮側の事情の説明、日本の内政問題からも説明。江華島事件は日本軍の挑発であったことを記述	征韓論の背景の国内 明。「日朝修好条規」 よるもの、不平等であ 詳しく説明
②朝鮮の近代化	日清戦争の原因として記述するのみで、近代化への記述なし。	朝鮮の内部での近代化には全く記述なし。	朝鮮の近代化に全く言及せず	「日本は内政干渉して改革を援助した」と記述しながら、朝鮮の努力に全く言及せず。					「庚申事変以後日本の世論は急速に硬化してアジアの一員としての連帯意識は影を消し」と記述。また、枠外で朝鮮国内の改革の困難な事情にも言及	朝鮮の近代化の動きを日本の立場からのみ説明。福沢諭吉の脱亜論の詳しい紹介がある	朝鮮近代化の動きを日本と中国の対決の問題としての視点からのみ記述。	日本中国ロシアの事 ての朝鮮の動きは記 るが、朝鮮の内部の きへの言及は無し。
③韓国併合（1910）	韓国の抵抗に触れながら経緯を簡単に記述。「日韓併合」	「実力を持って韓国併合を行った」と記述。併合のプロセスは詳細だが日本側の都合のみの説明。	事実のみ記載。条約名表記せず	韓国の抵抗と列国の黙認にふれる。「日韓併合条約」	韓国民の抵抗に触れ経緯を記述	日清戦争以後の併合のプロセス詳細「韓国君民の抵抗を抑えてこれを合併し植民地とした」と記述	併合の事実のみ記述。（これ以後教科書は「韓国併合」と表記）	左同	武力併合記述詳細	日清戦争以後の併合のプロセス詳細	武力併合の経緯詳細。閔妃暗殺に触れ	
④植民地支配の実態	朝鮮植民地支配の実態の記述、殆ど無し（土地調査事業で土地を失うものが多かったという一文のみ）/関東大震災時の朝鮮人虐殺に全く言及せず				同左。関東大震災での朝鮮人虐殺は記載される	枠外に厳しい実態を記載。台湾の霧社事件を記載。枠外に「朝鮮人台湾人などの植民地の人々を軍人あるいは労働者として含むを強制され、戦火のため死亡した人も大勢いた」/（関東大震災での朝鮮人虐殺の記載は教科書はこれ以後記載）	枠外「多数の朝鮮人のみならず占領下の中国人も日本に連行し、働かせた」	日本語教育の徹底や創氏改名の強制などの皇民化政策を記載	本文「植民地朝鮮では徴兵令がしかれ多くの人が戦線に送られた」「朝鮮から多数の朝鮮人が日本に強制連行された。70万人」（写真入り）」	本文「日本語教育の徹底など皇民化政策がとられ朝鮮では姓名を日本風に改める創氏改名が強制された」「数10万人の朝鮮人や数万人の中国人を強制連行で鉱山や土木工事で働かせた」	主題学習として2ページにわたって写真入りで詳しく実態を記述。創氏改名・皇民化・徴兵・慰安婦など本文中でも記載	本文で土地調査事業 記述。また本文に、「 万人以上が日本に強 過酷な労働条件や戦 くの犠牲者を出した。 万人が強制連行され が犠牲となった」さら 策を本文で記述
⑤従軍慰安婦	無（1994年からほとんどの教科書に記載始まる）							記載されず	本文中に「また、労働者、従軍慰安婦として戦場に送られた人々もいた」以後、ほとんどの教科書に「従軍慰安婦」は記載される	枠外「また、戦地に設置された慰安婦施設には中国朝鮮フィリッピンから女性が集められた（いわゆる従軍慰安婦）」	主題学習として詳しく記述。また「戦後日本の課題」においても写真入りで記述	本文写真入りで「植民 は従軍慰安婦として れた多くの女性がい 償問題一覧表にも記

	a　1954発行・教育図書「日本史」小葉田惇	b　1956発行（52検定）山川出版「日本史」東大史学会宝月圭吾藤木邦彦豊田武笠原一男他	1962発行三省堂出版「新日本史」家永三郎	d　1964発行山川出版「詳説日本史」東大宝月圭吾他6人	e　1974発行山川「詳説日本史」井上光貞笠原一男他	f　1988発行三省堂（81検定）「新日本史」家永三郎	g　1988発行山川「詳説日本史」井上光貞笠原一男児玉幸多他	98発行(97検定）山川「詳説日本史B]石井進笠原一男児玉幾也他	i　94発行自由書房（後、桐原書店統合）「新日本史B]竹内理三江坂輝也他	j　07発行（O6検定）山川「詳説日本史B]石井進加藤陽子五味文彦他	k　O8発行実教出版（O7検定）「日本史B]脇田修他14名	l　07桐原書店発行「新日本史B」江坂輝
⑥義兵闘争	無	無	三一運動を万歳事件として詳しく記述。また、満州・上海の「朝鮮独立政府」と朝鮮解放軍の組織に言及	枠外に安重根による伊藤博文暗殺記載。しかし、中国五四運動も、三一運動も言及なし	本文に「韓国民は激しく抵抗した。1909年伊藤博文は韓国青年にハルビン駅で暗殺されたのをきっかけに（後略）」「三一事件（万歳事件）と呼ばれる朝鮮独立運動が爆発した」	安重根は以後教科書に記載される	三一運動として本文に記載。義兵闘争は枠外に	左に同じ	本文で詳しく記述	ハーグ事件三一運動など本文に詳しく記載	ハーグ事件、三一運動など朝鮮の戦いは随所で言及。安重根や義兵闘争は写真入りで。弾圧の厳しさにも言及。台湾の抵抗にも言及	ハーグ事件、義兵闘など、随所で詳しく記
⑦地名用語問題	「北鮮南鮮」表記を古代から現代まで。「京城」を解説無く使用。朝鮮とすべきを「日韓修好条規」	「北鮮南鮮」古代から現在までで使用。朝鮮とすべきを「日韓修好条規」	1910年以前の個所で「京城」使用。「李氏朝鮮」「日鮮貿易」と表記	「北鮮南鮮」古代から現代まで使用・「京城」古代から近代まで説明なしで使用・「京城事変」・「（室町時代の）日鮮関係」・朝鮮を指す場合「半島は」を多用。「日鮮修好条規」と表記	地図上で「京城」を近代以前に使用。1884「京城事変」の使用例。	「北鮮南鮮」「京城」表記なし						
⑧中国戦線関係	南京事件・三光作戦強制連行の記載なし。家永三郎三省堂にも具体的記述なし。1974年ころには一部の教科書に南京事件記載（1946年文部省「日本の歴史「昭和12年、12月我が国が南京を占領したとき同地で行った残虐行為が、一層中華民国を徹底抗戦へと導いた」とあるが、1952年の検定教科書からは削除されている）					枠外に「南京大虐殺」として事件の概要を記載。数値無。枠外に「日本軍はいたるところで住民を虐殺し村を焼き払い中国の生命財産に計り知れない被害を与えた」（以後すべての教科書に記載）	南京事件として枠外に記載。三光作戦などの記載なし	枠外に「日本国は非戦闘員を含む多数の中国人を殺害し」と記述	南京事件として本文に概要。枠外に「20万人（中国では30万人）犠牲」と数値。三光作戦は本文で詳しく記述	南京事件として枠外に概要記述。三光作戦は731部隊も含めて枠外で詳しく記述	南京大虐殺として本文・枠外で数値も含めて詳しく。三光作戦など731部隊も含めて写真入りで詳細。満州は国家として表記する場合「満州国」と表記	南京大虐殺事件としく。20万人の数値。真入りで三光作戦を詳しく記述
⑨アジアの被害・日本国内の被害	中国・朝鮮への言及も少ないが、東南アジアへの被害の記述はほとんどなし。日本国民の被った悲惨さへの言及は、三星堂版にみられるのみ。					東南アジアへの占領政策の過酷さと反日闘争に1ページ。日本国民の被害も原爆被害を含めて詳しく記述。	教科書は以後、日本国内の被害や混乱を詳しく記載始めるがアジアの被害の記述は無し	同	占領地での軍政の苛烈さ、シンガポールでの反日闘争に言及。中国朝鮮での被害は数値を記載	日本軍の占領実態詳しく記述。強制労働や虐殺にも言及。	占領支配の実態・皇民化政策など詳しく記述。花岡事件含めて2ページ。満州国の実態、沖縄戦詳しく記載	東南アジア支配の実にわたって記述。日本惨さも詳しく記述。
⑩15年戦争の位置づけ（「太平洋戦争」の呼称は戦後すぐから）	・日中戦争を「日華事変」と表記・明治以来の軍部による侵略戦争であったことを記述。侵略という語も使用	・「日華事変」と表記・この戦争が軍部の侵略戦争であったことを記述。ただし、朝鮮中国アジアへの侵略の視点は見られず。日本国内の悲惨な状況を少し記述あり	「日華戦争」と表記。満州事変以後日本の侵略戦争であったことを強調。日本国内の被害にも詳しく言及	「日華事変」と表記。軍部による侵略戦争であったという説明だが、侵略の実態が記述されていない	・「日中戦争」（この戦争ははじめ北支事変支那事変と呼ばれたが実際には全面戦争であった）と説明。（これ以後教科書は日中戦争と表記）	「日中戦争」と呼びながら「15年戦争」という呼び名を提唱。「そもそも朝鮮台湾の植民地支配と中国侵略を続けながら欧米植民地からの解放を唱えることに根本的矛盾があった」具体的な侵略の記述が多い。	「侵略」用語として使用せず、「中国進出」表記を一貫	「中国進出」	「日中戦争」及び「15年戦争」の呼称の紹介。侵略戦争であることの具体的記述が多くみられる	「東アジアへの侵略をすすめ」と侵略の用語。一貫して侵略戦争であったことが記述される	「日中戦争」「15年戦争」「アジア太平洋戦争」を使用。随所に「侵略」の用語。章の概説でも「アジア侵略が戦争の基本である」と表記	「日中戦争」「15年戦太平洋戦争」と表記。厳しく批判
⑪朝鮮戦争（1950～）		朝鮮戦争を「朝鮮事変」と表記。戦争のプロセスは背後の米ソの権力の推移にも言及して詳しい		「北鮮」「南鮮」「朝鮮動乱」と表記。	「朝鮮戦争」と南北分断について事実関係を記述するだけで、日本の責任やその後の日朝関係、在日朝鮮人問題などへの言及は皆無。94自由書房版には戦火を逃れる朝鮮人の避難							
⑫戦後の朝鮮関係　日韓基本条約（1965）・日朝関係					「日韓基本条約」が難航したことに触れ「植民地時代の事後処理などで大きく対立した」と説明。	日韓基本条約「賛否両論の中で締結を強行した」とのみ記述	日韓基本条約について「難航していた国交の樹立をはかるため会議の終結を急いだ」と記述。枠外に「植民地時代の事後処理法案問題などで難航した」と記述	左同。枠外に「在日韓国人の法的地位について」少し言及	日韓条約締結課題として、「北朝鮮との国交が持たれていない」ことに言及	日韓条約締結の事実のみ記載。小泉訪朝と拉致問題に言及	日韓条約の問題性を「アメリカのアジア政策への協力」「対日請求権のすり替えという批判」「北朝鮮との関係」といった記述で説明。戦後補償問題として慰安婦や強制労働の補償問題があることを記載。	日韓条約締結の事実戦後補償問題・小渕
⑬戦後補償	「これからの課題として戦時賠償問題がある」という記述の教科書もあるが、侵略戦争であったことへの認識が十分でない段階では謝罪と補償は問題になりえなかった。05山川ではサンフランシスコ講和条約の所で、対戦国への個別賠償を記述している。大阪図書・教育出版は1996年度の教科書に戦後補償の記述あり										戦後補償問題が未解決である現状を現代の随所で記述。	補償問題の重要性を の戦後補償問題を一 ている。

	a　1954発行・教育図書「日本史」小葉田惇	b　1956発行（52検定）山川出版「日本史」東大史学会宝月圭吾藤木邦彦豊田武笠原一男他	1962発行三省堂出版「新日本史」家永三郎	d　1964発行山川出版「詳説日本史」東大宝月圭吾他6人	e　1974発行山川「詳説日本史」井上光貞笠原一男他	f　1988発行三省堂（81検定）「新日本史」家永三郎	g　1988発行山川「詳説日本史」井上光貞笠原一男児玉幸多他	98発行(97検定）山川「詳説日本史B]石井進笠原一男児玉幾也他	i　94発行自由書房（後、桐原書店統合）「新日本史B]竹内理三江坂輝也他	j　07発行（O6検定）山川「詳説日本史B]石井進加藤陽子五味文彦他	k　O8発行実教出版（O7検定）「日本史B]脇田修他14名	l　07桐原書店発行「新日本史B」江坂輝
⑭戦争責任問題	侵略戦争であったという認識は1950年代からみられる。2度と悲惨な戦争は嫌だとの思いは強いが、軍部批判に終始しアジア諸国への反省の視点は見られない		具体的な記述はないが、歴史を学ぶ目的として「戦争を繰り返さない」ことを表明している	戦時中も戦後も朝鮮中国アジアへの視点は殆ど無し。「ついに〇〇事件が起こり」「ついに〇〇戦争となった。そしてついに」という説明が目立つ。	左同	日本軍の占領支配の過酷さを具体的に記述、それへの痛切な反省を記述。	サンフランシスコ講和条約で、中国などの連合国との賠償問題を記述しているが、韓国には触れず	全く無し	戦争の悲惨さを具体的に記述することで日本の戦争責任を明確にしている。中国の賠償請求放棄、に言及	戦争の悲惨さは詳しく記述され、侵略への反省はあるが、補償問題も含めて戦争責任問題にまったく言及せず。	村山談話を全文掲載。また本文に「村山談話で植民地支配と侵略への反省を表明したが、侵略戦争の責任を明確にしない日本政府の姿勢や日本の歴史認識に対するアジア諸国の不信感が消えない」と踏み込んだ記述も。教科書問題に触れ、日本の課題として戦争責任を問題にした記述が随所に見られる。	戦争責任問題重視の 所にある。小渕発言 98年日韓共同宣言 民地支配に対する小 『痛切な反省と心から と紹介
⑮教科書の特徴	2・26事件から日中戦争・太平洋戦争の経緯はよく説明されている。厭戦的な記述多い。「明治以来のアジア侵略」と認識しながらそれを東条ら軍部の責任とし、侵略への反省の記述はみられない。古代では天皇や朝廷を中心に記述し、日本および日本文化の優秀性記述が多い。序文に「科学的に」「総合的に」「歴史的に正しく」との語句が並ぶ。	太平洋戦争に至るプロセスが侵略であることが明記。軍部の無謀さ、政党政治の無力さへのいらだちがみられる。ただし、中国朝鮮アジアへの視点は全く見られない。「わが国」「わが軍」表記が随所に。古代、朝廷や天皇中心で日本の優越の記述が目立つ。明治政府への評価が高い。敗戦後の改革を評価し天皇の人間宣言も踏み込んだ説明となっている	歴史を学ぶ目的を「なぜ私たちは悲惨な経験をしなければならなかったのか、日本人は真剣に日本の過去を反省しなければならない」と明記し、「近代化の遅れ（特に農村の貧困）を問題とし、民主主義改革の必要性を熱く主張。そのために①の「我々日本人は」といった語調が随所にみられる戦争の被害の記述は少ない。近代以前の朝鮮記述は少ない。家永三郎は教科書を一人で全文執筆	序文に「戦後の長い混乱と無気力を克服し、真の意味で幸福な民主社会を築き上げることが我々の使命である」と記述。しかしアジアへの視点は戦時中も戦後も殆ど無し。「ついに戦争がおこり」とか「ついに〇〇事件が起こり」といった表現が目立つ。古代は天皇中心に記述。		歴史を学ぶ目的を「はじめに」ではっきり明記。「悲惨な戦争を繰り返さないために学ぶ」と。今だ解決されていない問題が少なくないこと、パルチザンと比較しての日本人の抵抗のこと、戦後の平和運動の詳しい記述核兵器の脅威のことなど。軍部の無謀な無責任体制にも詳しい記述。家永氏は教科書を全部氏個人で執筆		現代の課題として「対朝鮮関係では日韓条約によって大韓民国との間に正式の国交が開かれているが、朝鮮民主主義人民共和国とは国交がもたれていない」「被差別部落の問題解決や、在日外国人に対する差別の撤廃などの多くの問題がある」と言及	戦後補償や戦争責任にほとんど言及せず。日中戦争の経過、軍部の横暴や政治の無力などは詳細。、侵略戦争であったことを明確に記述。古代王権の成立を多面的に解説	侵略戦争としての視点から戦争の苛烈さ（日本国民の苦しみにも詳しく言及）を詳しく記述。軍部の責任だけでなく、政府側の関与にもふれている。戦後、補償問題に各所で触れ日本の課題であることが明記されている。戦争を軍部の責任だけにせず政治の問題としても説明。平和運動や憲法問題にも熱意を示している。古代王権の成立に関する記述が詳細	現代で沖縄線及びア 犠牲にそれぞれ2ペ しい。アイヌ文化と琉 歴史文化の詳しい記 本の現代の課題とし 際化も要求されてい には日本文化への正 誇り、植民地支配や 略を含めた自国の近 が必要である。」とい 王権成立の多角的な